

9 魯迅医学筆記について

泉 彪之助

中国の文豪魯迅は日本に留学し、仙台医学専門学校で医学を学んだ。そのとき作成したノートは、北京の魯迅博物館に保存されている。これを見た人は多く、日本でも展示されたが、系統的な調査は行われたことがなかった。演者は、一九九三年八月および一九九四年七月、魯迅博物館の好意で調査を行ったので報告する。一般には魯迅の解剖学ノートとよばれているが、解剖学以外の科目も含まれ、また筆記六冊中の一冊が《解剖学》と名付けられているので、魯迅博物館の命名に従い、全体を魯迅医学筆記と呼ぶ。

魯迅医学筆記は六冊からなり、各冊は大学ノート数冊が合本製本されたものである。各冊は冒頭の記載によって名付けられ、名称、内容、魯迅記載の講義担当者は次

の通りである。

《有機化学》…有機化学(佐野喜代作)、有機化学(I)、有機化学II

《解剖学》…解剖学総論(発生学を含む)、骨学、靭帯学

(左記すべて敷波重治郎)、筋学(藤野巖九郎)

《五官学》…感覚器学(敷波重治郎)、内臓学(敷波重治郎)、内臓学II

脈管学

《脈管学》…脈管学(藤野巖九郎)、神経(解剖)学、局

所解剖学(上肢、頭部)

《組織学》…組織学(敷波重治郎)、生理学

《病変学》…病理学

生理学、病理学には担当者名がない。《脈管学》には最初しか担当者名が書かれていないが、全部が藤野巖九郎の担当と思われる。骨学が敷波重治郎の担当なのは、魯迅の作品「藤野先生」の記載と異なっている。

『仙台における魯迅の記録』に記載された仙台医学専門学校一年級、二年級の講義科目と比較すると、物理学、ドイツ語、倫理学、細菌学、薬物学、診断学、外科総論などの筆記がない。したがって魯迅医学筆記は、魯迅が

仙台医学専門学校在学中に作成したノートの全部ではないと考えられる。

化学は有機化学、脈管学は動脈系、局所解剖学は上肢と頭部のみである。

解剖学に関連したノートでは、日本語(仮名は片仮名)、ドイツ語、ラテン語が用いられ、語源について、ギリシヤ語が2カ所書かれている。

「藤野先生」に書かれている藤野厳九郎の最初の講義内容、日本における解剖学発達の歴史は、魯迅医学筆記中には見いだされなかった。

魯迅の描いた解剖図は極めて丁寧に画かれており、講義中に画いたものでなく、放課後に書き直した可能性が大きい。

藤野厳九郎による加筆訂正は、担当の《脈管学》にもつとも多いが、担当科目でない《五管学》、《有機化学》、《病変学》、《組織学》にも認められた。藤野厳九郎の担当科目である筋学を含め、《解剖学》には図への加筆を除き、訂正がない。

「藤野先生」にある、「君は血管の位置を変えたね」と

いう文に対応するような記載が、大腿血管のところで見られた。

藤野厳九郎による加筆訂正はしばしば過度で、これが魯迅が上記の「血管の位置」の文を加えた理由、あるいは魯迅が文学に転向した原因の一つとなったのではないかと思われる。

(福井県立大学看護短期大学部)